

福岡県春日市で6/29(土)～6/30(日)に開催された
九手連幹部会議評議員会、研修会並びに各県からの取組報告
についてお伝えします。



研修会に参加して



鹿児島県 【 手話サークル きりしま 中野千枝美 さん 】



6月30日の九手連研修会に参加しました。

午前は、テーマ「手話との出会いから、言語の獲得へ」標準手話研究部九州班班長山本秀樹氏の講演がありました。手話言語を学ぶと同時に聞こえない方の歴史を知ることの必要性、新しい手話単語について話されました。

午後は、テーマ「九州の手話方言」～各地の豊かな手話を学ぶ～山本秀樹氏をコーディネーターとして、長崎県の荒木宏彦氏、大分県の佐藤厚子氏、佐賀県の中島和次氏、鹿児島県の小林紳也氏の発表者から手話方言を学びました。手話単語14語を各地域の手話方言で話をしてくださいました。その中でも、印象的だったのが「ほんのちょっと(少し)思っていたより少ない」の単語を発表者皆さんの例が「食堂のメニューの写真と実際、運ばれた食事の量が思っていたのと違い少なかった時に使う」と共通して説明されていました。出された食事が、期待していたものと違う時の表情や気持ちが込められていて面白いと思いました。先輩が使っていた手話、生活の中で使っていた手話、時代背景、コミュニティの中で生まれた手話方言と知りました。そうだったのかと知れば知るほど手話に魅力を感じました。出会ったことのない手話方言を学ぶことは、聞こえない方のことを知るきっかけにもなると思います。

講演に参加して豊かな気持ちになれました。ありがとうございました



研修会に参加して



熊本県【天草わかぎ 橋本健一 さん】



午前の講演は、「私がどのように手話を身につけたか？～ろう者の生活と 教育環境について～」をテーマに社会福祉法人 全国手話研修センター 標準手話研修部九州班長 山本秀樹氏の講演でした。

山本氏の生い立ちから現在の活動、手話言語の成り立ちや新しい手話単語の検討方法などをお話いただきました。

山本氏は、1歳6か月の時にジフテリアの高熱が原因で失聴しました。

4人家族で育ち、家族の中では、一人だけろう者でした。

家族とのコミュニケーションや言葉の獲得は難しく、物に名前が書いてあっても理解できませんでした。飛行機型のシールに自分の名前が書いてあり、その飛行機型が目印となり自分の物だと判断していたそうです。長崎県立ろう学校佐世保分校(小学部)に通い、小3の時に自分の名前を知りました。



そこから物にも名前があることが分かり勉強することが今に繋がっているそうです。高等部の時に原付免許の試験を受けましたが、問題文の日本語が理解できず挫折した過去があります。自動車運転免許取得のために協会へ入り新しい言葉を知り、ろう協主催の学習会へ参加し、手話で習うことで、理解することができたそうです。そして、23歳の時に免許を獲得されました。手話で学ぶことの大切さをお話しされました。

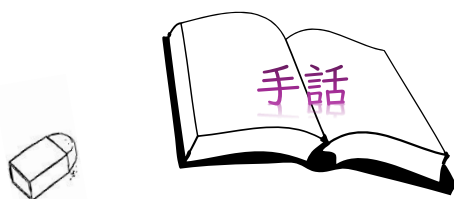


つぎに、面白い話「なるほど！ろうあ者手話語源」をお話いただきました。

手話の語源になった写真やイラストで説明してある本「手話の知恵」の紹介があり、単語「大変」「なまける」「平気」「仕方がない」「再び・元に」の語源を教えてくださいました。私もよく「この手話単語の語源は何？」と聞かれますが、「そう覚えた」とか「そう習ったから」としか言えませんでした。この本があれば教えられるのかも知れません。しかし、現在は販売されていませんし、プレミアム価格が付いています。

山本氏は、全国手話研修センターで標準手話確定普及研究部に所属されています。新しい手話単語を日本全国の9班に分けて構成し、本委員会で決定後、全国からパブリックコメントをもらい確定しています。新しい手話の作り方のルールとして「動作が簡略」「似た手話と区別しやすい」「意味を理解しやすい」ことを基本原則に検討されています。

次々と、新しい言葉が出てくるので言葉を選び、検討すると思うと想像し難いことです。これからも「現在まで伝わってきた手話」と「新しくできた手話」を大切に、学んでいかななくてはならないと思いました。



いいね！



九手連評議員会に参加して

長崎県 【 佐世保手話サークル親ゆび小ゆび 野田 満也さん 】

6月29日(土)福岡県春日市クローバープラザにて、評議員会が開催されました。私は昨年につき2回目の参加になります。今回も来賓はお招きせず、理事と評議員出席者26名、委任2名での協議となりました。最初に池尻会長の挨拶があり、続いて開催県の福岡県より選出の野田和彦議長の進行により議案が進められていきました。令和6年度予算については訪問研修を再開のための研修費の増額、組織費として、宮崎県手話サークル連絡協議会へのフォローがありました。また、九手連創立50周年事業にむけての特別事業費に増額がありました。議事は議長のスムーズな進行により、滞りなく拍手を持って承認されました。役員改選では事務局長が退任、長崎県より事務局長選出、長崎県、佐賀県の理事が交代した役員の改選がありました。私は前回と今回2回の評議員会に参加することにより、九手連が身近に感じられたように思います。退任された方、お疲れ様でした。また新しく就任される方、よろしく願いたします。

幹部研修会に参加して

長崎県 【 大村手話サークル 井川 真智子さん 】

令和6年6月29日、福岡県春日市のクローバープラザにて幹部研修会が開催されました。はじめに熊本県手話サークルわかぎの田中みさ代さんが、「わかぎ」で行ったサークル活動に関するアンケートと、その結果を用いたワークショップについてご説明をされました。その後、A～Dの4グループ(各グループ7～8名)に分かれ、わかぎで使用されたアンケートを用いながらグループ討議を行い、出た意見を全体で発表しあいました。サークルの規模や立地など異なる環境下での活動にも関わらず、ほとんどのグループから共通して出た課題が後継者の育成、人材不足でした。反対に、活動内容や頻度にはサークルごとの特色が出ておりましたので抜粋してご紹介します。

学習に国際手話を取り入れている団体、手話だけで話すサイレントタイムを設け、声を出すと罰金10円のルールがある団体、県手話サークル連絡協議会の総会で劇を披露し、練習の過程で一体感を高めた団体、自治体や社協と連携して災害訓練を開催して相互理解を深めることができたという団体もありました。

最後は「この場で課題が解決できなくても、意見を出す、聞くことが大切」という会長の挨拶で締めくくられました。この研修で学んだことを持ち帰り、今後の活動に活かしたいと思います。



九手連研修会に初めて参加して



福岡県【柳川手話の会 檀知里さん】



両親や兄とのコミュニケーション方法に対する苦労があって、自分の名前を覚えるのにも一苦労だったことを知ることが出来たり、ろう者の日常で使う手話の語源を知ることが出来、とても為になるものでした。また、県によって手話の表現方法が違うのもので普段知り得ないものを習得出来とても良い機会になったので、参加して良かったと思いました。



福岡県【柳川手話の会 廣田恵美子さん】



昨年度、基礎を修了したばかりで、九手連研修会に初めて参加しました。午前の部では、講師の山本秀樹氏が「手話との出会いから手話の獲得へ」のテーマで話されました。生い立ちから教育環境、手話の獲得への道のりは、私の知らなかった世界でした。お話から、言葉である手話が重要不可欠で、大切だと言うことを改めて感じました。

手話を学ぶだけでなく、ろう者の生活、文化、ろう運動や歴史などを学び知る事も大事だと教えられました。手話で学ぶ大切さ、ろう者が日常生活の色々な場面で手話を使い安心して暮らせる社会になればと思いました。

午後の部では、「九州の方言」～各地の豊かな手話を学ぶ～をテーマに、山本氏が司会進行され、長崎、大分、佐賀、鹿児島各県のゲストの方々を招いて、各地の手話を表現され、山本氏がコメントされ、とても楽しく興味深い時間でした。各県で違っていたり、似ている所もあったり、その県で必要な手話の使用されてると分かりました。昔からや、先輩から受け継がれてきた方言ならではの、意味や味わいや懐かしさにほっこりしました。

山本氏の「言葉はお互いに分かる事が大切」は、何事にも通じる深い意味を持つと思いました。研修会に参加して良かったです。ありがとうございました。

大分県^{ひじ}日出町手話サークル「ひじ」の挑戦

【手話サークル「ひじ」会長 川野順二さん】



私たちの町は別府湾を南に臨む風光明媚な土地にあり、人口28,500人の小さな町です。昭和60年、「福祉の町」に指定されて以来、ソニー太陽日出工場やホンダR&D太陽(株)などの工場進出で、人口の割にろう者も多く暮らしています。手話サークル「ひじ」は昭和58年6月に誕生し、今年41歳を迎えました。

そんなサークルが平成25年から始めたのが「手話マラソン」(研修会)です。当初は、「どんな服装で参加したらいいですか?」「シューズは必要ですか?」などの質問を受けましたが、「普通に研修会ですよ。」という回答にホッとして参加してくれるようになりました。

第1回目の講師は熊本県の梶原初子さん、「7つのポイント講座」でした。その後、長崎県、福岡県、宮崎県、そして広島県など県外から講師をお招きして「手話マラソン」を開催してきました。2度、3度と講師を引き受けてくださった方もいらっしゃいます。

折角、県外から講師を招くのだからと大分県内各地のサークルにも呼びかけをして、参加者は次第に増え、最近では60名を超えるまでになりました。

コロナ感染症のために4年間開催を見送りましたが、今年の春から再開し、県内のろう講師に「大分の手話」や「ろう者の手話と文化」といったテーマで講義をしていただき、先日15回を終了しました。

11年前に「手話力アップとろう問題、通訳問題の継続的な学習会を開いていこう」とサークルで話し合い、だったらと付けた名前が「手話マラソン」でした。マラソンですから42kmではないですが、42回開催を目指しています。つまり42回目がこの研修会のゴールというわけです。

この先どこまで継続できるのかわかりませんが、まずはハーフマラソンの21kmを、そこから折り返して30km、35km、40km、そしてゴールの42kmと手話サークル「ひじ」の挑戦は続きます。



佐賀県活動

聞こえない・聞こえにくい子どもの交流会をしています



2022年の奉仕員養成講座に聞こえない子どものお母さんが居ました。その方から娘に日本手話を身に付けてほしい。どうしたらいいか？相談を受けました。ろう者が集まる所を紹介するもうまくいかず、それなら自分達でやろうとサークルでメンバーを募り、会を始めました。ろう者も数人手伝ってくれ、佐賀市内の公民館を拠点に活動しています。

(↑お屋さんごっこ。お店づくりからみんなでしました)

(風船バレー。めちゃ盛り上がる→)



きこえない子どもの親の9割以上がきこえる人。

家庭で手話に触れる機会が少ないです。地元の学校に通う子も同じ。

ろう学校も生徒が減り手話を身に付ける環境充実していないと言えます。手話言語の伝承にも影響します。



佐賀・福岡・熊本から参加があります。対象は乳児から小学校高学年まで。2ヶ月に1回程度交流をしています。スタッフはろう者サークル会員合わせて10名程度。ろう学校教諭や保育士も居ます。目的は「楽しくコミュニケーション」です。今年7月の交流から県の補助金を頂けることになり

活動の幅が広がりました。これからも地道な活動を続けていきたいです。



(↑イス取りゲーム。合図は太鼓を使っています)



手話サークルむつごろう 会長 高倉尊広さん



編集後記

「ろう者がろう者らしく生きること」は当たり前権利。

私たち手話関係者の喜びあり活動の原点だと再認識した研修会でした。

9月21日の熊本開催の研修会でも多数の参加をお待ちしています。

九州手話サークル連絡協議会 発行責任者:池尻和吉

事務局:川上順子

広報担当:佐賀県 辻田亜紀